



脇町ロータリークラブ

第2670地区

徳島第2分区 脇町ロータリークラブ

2020年9月17日 木曜日

第10回例会 No.2724

会員総数: 40名 出席率: 67.5%



◎会長挨拶

白川会長 暑かった夏ですが、やっと朝晩秋らしくなりました。まわりを見渡してみますと、うるさく泣いていた蝉からリンリンリーンと鈴虫が鳴き始め、木々になる果実もまだ青いといえども大きく実って参りました。

まず、安倍晋三総理大臣の辞任により、菅義偉元官房長官が総理総裁に任命されました。安倍政治の継承を掲げており、コロナ禍の非常事態には安定した内閣で安心できるという評価の一方で、尻拭い内閣とか、事故物件内閣と揶揄するマスコミの論評も目につきます。ご本人も閣僚指名において内閣の要たる官房長官を自分の政治の師たる梶山静六の長男弘志を念頭に思っていたようですが、派閥の力学により加藤勝信氏を任命せざるを得ない事となり、苦虫を噛んだとも報道されています。いずれにせよ我々国民は結果が第一です。コロナと経済という両立が難しい問題ですが、知恵を絞ってリーダーシップを発揮して少しでも良い方向に導いて欲しいものです。

この様な中ですが人数を制限しながらスポーツも行われています。プロ野球も大相撲もしています。阪神ファンにとっては野球はやっていませんよ、と言いたいところですが実際にやっています。首位巨人との差は11.5ゲームで巨人にマジック35が点灯しました。昨日、テレビで観戦しましたが、両チームのベンチが映るのですが、全く対照的で巨人は原監督をはじめ全員の気が沸き立っていますが、阪神は気が沈んでしまっています。やはり気が沈むと判断力も鈍ってしまいます。

さて、我々が判断する時、八識をもって識別します。眼・耳・鼻・舌・身という五識とそれを総じて意識の六識と、人間の本能ともいわれる【未那識】（精神分析の提唱者のフロイトはこれを無意識と表現しました）。さらにその奥に心の本体である【阿未那識】があります。これを八識といい人間が前世からの記憶が蓄えられています。私達の「世界」を生み出しているともされており、精神医学者ユングの言う「集会的無意識」に近いのかもしれませんが、何が言いたいのかと言いますと、物事の判断基準とは表面と心の奥底とにあるということです。政治もスポーツも私たちの日々の判断も生身の人間が行うということですね。良い結果が導けるように日々判断力を養っていきたいものです。

◎幹事報告

- 古田幹事 到着週報 ●阿波池田RC 鴨島RC
到着書類 ●美馬市社会福祉協議会より第16回美馬市社会福祉大会中止の案内
●第11回ガバナー杯野球大会中止の案内
●阿波池田RCより5クラブ親善ゴルフ大会の案内

◎卓話

谷口会員 最近テレビで「半沢直樹」が話題です。視聴率が20%を超えているとのこと。コロナの今、あれだけ顔を寄せ合って「密」の状態、口角泡を飛ばした大袈裟な台詞回しで、流行語大賞にいつもノミネートされるような名台詞が頻発しており、私もストーリー以上に演劇演出を楽しんでいます。銀行員として共感できること、これは違うわと思うこともあります。主人公の半沢直樹は架空の人物で、原作の設定ではバブル期入行（平成元年入行）となっています。私が平成3年入行ですから、まさに半沢直樹と同世代です。先日女子行員にこの話をしますと、全然見た目が違うのではないかとこの疑問もあるようでクスクス笑われました。そこで、今日は半沢直樹に出てくるエピソード等を変え、銀行の業務や決算のこと、規制等についてもご紹介します。

銀行法第1条では「この法律は銀行の業務の公共性に鑑み、信用を維持し、預金者等の保護を確保するとともに金融の円滑を図る為、銀行の業務の健全かつ適切な運営を期し、もって国民経済の健全な発展に資することを目的とする」と始まります。銀行と名乗るには銀行法第4条に基づき内閣総理大臣の免許が必要です。この法律及び銀行法施行規則等関連法令により、銀行は「監督官庁＝金融庁」

から検査や指導監督を受けることとなっています。このような背景がある中「半沢直樹」でも業務改善命令や金融庁検査という言葉が出てきますが、これらは銀行法等に基づいて指導が行われている中での1コマです。金融庁が実施する行政処分の中に「業務改善命令」があります。それより厳しいものに「業務停止命令」や「免許の取消し」があります。業務改善命令は不祥事発生等により発出されることもあり、この2年程度で銀行には5行に発出されています。改善命令を受けると改善計画書の策定、その後のフォローアップ等が必要になります。不良債権問題が大きい時代は自己資本比率が基準以下となることで業務改善命令が発出されることも多くありましたが、最近はそのようなケースについては稀となっています。

次にドラマにおいて業務改善命令の原因となった金融庁検査についてお話します。金融庁が銀行を監視・管理する中で、監督指針・金融検査マニュアルというものがあります。監督指針は金融機関の業態・規模別に定められ、当行は「中小・地域金融機関向けの総合的な監督指針」が年1回発出されています。金融検査マニュアルは一昨年前に廃止されましたが、これらが銀行にとってはバイブルで金融庁がどんなことに重点を置いて銀行を指導しているのかということが分かるようになってきています。金融庁は普段から銀行に対し各種計数の報告を求めるなどオフサイトでモニタリング、つまり銀行に赴かずデータの提出等により報告を受けて監督しています。それに加えて実地（銀行に赴いて）で実施するのが金融庁検査です。ドラマでは黒崎検査官が「これより金融庁検査を行います。よろしくね！」ということで検査が始まります。検査の中で問題点を指摘され銀行側も「おっしやる通り」と認めると、指摘された事項については改善策を報告し、改善策を実施後改めて結果を報告することになります。皆様方のところに税務署が来て、この経理処理はダメですよと言われるのとよく似たものだと思います。

バブル崩壊以降、平成の前半での金融庁検査の重点は「不良債権処理＝銀行の健全性・安全性」と言っても過言ではありません。しかし最近の金融庁検査では「資産査定」という項目は重要視されなくなってますので半沢直樹の金融庁検査の一場面は少し前の風景だと思います。今、金融庁の監督の主眼は、マイナス金利で銀行の収益環境が厳しくなっていく中、それぞれの銀行が独自のビジネスモデルを持ち、永続的に収益を確保出来るのかどうかということに移ってきてます。経営統合等も地方銀行の経営戦略の一つと菅新総理が発言しているのはそのことが要因だろうと思います。

今、ドラマの中では帝国航空に対する債権放棄がテーマになっています。半沢直樹が再建放棄を渋るという設定ですが、なぜ渋っているのかというと、債券放棄をしても本業の部分で収益体質の改善がなされないと、また赤字となって残った融資が更に不良債権化してしまう恐れがあるということ。また、そもそも債権放棄をしなくてもいい債券であるのに、強引に債券放棄をされるのは問題だと考えているのではないかと私は思います。銀行は万一に備え引当金を積んでいます。予防的に引当をした債券なら債券放棄も決算に与える影響はないのですが、そうでない場合は債権放棄額＝貸倒損失額となり、銀行決算に大きな影響を及ぼしてしまいます。半沢直樹も決算修正とならないよう必死に戦っていると思います。私も十分融資先の実態把握を行い、正確な自己査定をすることを心掛けています。

たわいもないお話でしたが、銀行ってこんなことをしているのだということのを少しでもご理解いただけたら幸いです。ドラマでは大和田取締役が「施されたら返し返す。恩返しです」と言っておりました。コロナ禍の今、今までいただいたご厚情に対し、阿波銀行として出来る限りのことを地域の皆様のために恩返ししていきたいと思っておりますので、今後ともご指導・お付き合いをお願いしたいと思っております。本日はありがとうございました。

◎ニコニコボックス

遠藤会員

次回例会	2020年9月24日(木) 12:30より 四季料理 森友 WEB会議 併用開催
卓話	信田会員

☆次の会員は例会欠席でした。メイクアップして下さい。

一井会員、遠藤会員、上柿会員、木下会員、郷司会員、佐藤順二会員、須藤会員、豊島会員
秦会員、藤川会員、藤村会員、南善幸会員、吉野会員

☆次回例会の出欠を鉄野出席委員長まで連絡してください。